

一般質問

寒川 佳枝 議員
公明党議員会



指定避難所における
備品等の確保は

Q 今年から備蓄を予定している液体ミルクに加えて、使い捨ての哺乳瓶もあれば安心だと思いませんかか。

A 液体ミルクについては、賞味期限が1年と短いことから、今年度288缶を3回に分けて購入する予定です。この液体ミルクを避難所で活用することを考えると、使い捨て哺乳瓶が必要となることから、昨年度5個入りを200セット購入しました。購入した使い捨て哺乳瓶は、今年度の備蓄入れ替え時に各避難所に配布する予定です。

(総務部長)



乳がんの早期発見に向けた
取り組みを

Q 乳がん自己検診用の手袋を使うことにより検診の受診促進にもつながるのではないかと考えるが、本市で配布することはできないか。

A 自己検診に手袋は必須ではなく、1枚当たり500円程度とかなり高価なため、長続きするよう素手でできる自己検診に慣れていただきたいと考えています。乳がんのセルフチェックは重要であると認識しており、本市においても、検診の機会を捉え、乳房の模型やパンフレットを用いて、自己検診の方法を周知しています。乳がんを早期発見するには、月1回は自分の目と指の腹を使ったセルフチェックが大切であり、習慣化するよう広く周知するとともに、今後も、乳がん検診の受診率向上を図るなど、乳がんの早期発見に努めていきたいと考えています。

(健康福祉部長)

若谷 修治 議員
市民グループ未来の会



「Face to Face」の教育
から、学びの「Side by
Side」へ移行すべきでは

Q 学びのICT化を代替手段に終わらせず、個人の差異に寄り添うコロナ時代の新しい学びについて本気で考えることが、本市の学びの未来図ではないか。

A 臨時休業等、非常時におけるオンライン教育のあり方を十分に検討し、実現していく必要もあります。

しかし、教育の本質は全人格的なものであり、学ぶ内容だけに限らず、主体的・対話的で深い学びを保障する協働的な学習、集団の中の仲間づくりや交流活動、教師とのコミュニケーションが極めて大切であり、それらを通して質の高い教育が実現するものです。

これからの学校教育においては、ICTの効果的な活用とともに、オンラインの学習の特質を見極めながら、教師と児童が共に学びを深める対面による学習の充実が、本市の次代を生きる子供たちの学びを創造していくことにつながっていくものと考えます。

(教育長)

新型コロナウイルス等感染症
に対応した避難所運営を

Q 避難所を感染リスクの少ない環境に保つため、飛沫対策として段ボールハウスや間仕切り、ベッド等が有益だと考える。地元段ボール会社と提携するなどし、段ボールの備蓄を行ってはどうか。

A 本市においても、間仕切りテントを680張り備蓄しており、避難所運営における新型コロナウイルス感染症対策には、このテントに加え段ボール製のベッドや間仕切りを組み合わせたことが有効な対策の1つと考えています。

現在、災害時に段ボール製のベッドや間仕切りなどを迅速に確保し、避難所運営に活用するため、全国段ボール工業組合連合会防災アドバイザーの話を伺うなど、段ボール製造会社との協定締結に向けた協議を進めており、新型コロナウイルス感染症への感染防止のための整備を図っていききたいと考えています。

(市長)

質問の 主な項目

- ・ ネット・ゲーム依存症問題について